

タイトルデザイン 佐藤良助氏

エル プエンテ (橋) 秦野市立図書館報 《No.38》 2009.8

◆ 第22回夕暮祭短歌大会

ふるさと秦野の生んだ歌人、前田夕暮を偲んで開催している「夕暮祭短歌大会」は、今年で第22回を数えることとなりました。

今回も、各地から多くの作品が寄せられ、去る6月14日には、秦野市文化会館小ホールにおいて、表彰式及び記念講演会を開催しました。

本年度は、第61回全国植樹祭プレ大会の開催に合わせ、例年の自由題の部に加え、「題詠「緑」の部」を設け、緑を詠み込んだ歌を併せて募集したところ、実に3,651首もの力作が寄せられました。

選考の結果、「神奈川県知事賞」には題詠「緑」の部で西川修子さん(東京都杉並区)の作品が、また自由題の部では、藤家幸子さん(神奈川県座間市)の作品がそれぞれ選ばれました。

また、特に多くの作品をお寄せいただいた秦野市内の小・中学校の児童・生徒の皆さんに対して、「奨励賞」を設け、子供ならではの、瑞々しい感性と

自由な発想による優れた作品について、併せて表彰しました。

本市では、前田夕暮や谷 鼎(たにかなえ)の業績を讃え、先人の遺した文学遺産を次代に受け継いでゆくとともに、「歌人の里づくり(短歌のふるさとづくり)」事業を、今後も積極的に推進していきたいと考えています。

ふるさと秦野が、短歌を通じて、文化の香りあふれる町になることを念じつつ、選者の先生方をはじめ、今回の大会に際し、作品をお寄せいただいたすべての皆さん、その他ご助力、ご協力いただいた皆さんに、心より深く感謝申し上げます。

■ 神奈川県知事賞(題詠「緑」の部)

木斛をつくる鋏の手をとめて庭師目に追ふよぎる揚羽を

西川 修子さん(東京都杉並区)

*木斛(もっこく)：ツバキ科の常緑高木で、夏季、白色五弁の花を咲かせる。

(広辞苑第五版より)

■ 神奈川県知事賞(自由題の部)

一輪車あやつる少女の白き腕翼おもは
せバランス保つ

勝家 幸子さん(神奈川県座間市)

■ 秦野市長賞(題詠「緑」の部)

祖母の家初めて一人で行った夏 変わ
らぬ木々の道案内で

久永 紘仁朗さん(神奈川県秦野市)

■ 秦野市長賞(自由題の部)

浜の漁夫手計りで売る新若布海香も
入れる土産の袋

梅澤 育子さん(神奈川県横須賀市)

■ 教育長賞(題詠「緑」の部)

さみどりのよもぎ草餅湯気たてて春は産
まれ来母の指から

福田 桂子さん(東京都稲城市)

■ 教育長賞(自由題の部)

ひとり居の向かいは雨戸開けたるや窓
に見やりてトーストを食む

末田 裕子さん(千葉県柏市)

■ 神奈川新聞社賞(題詠「緑」の部)

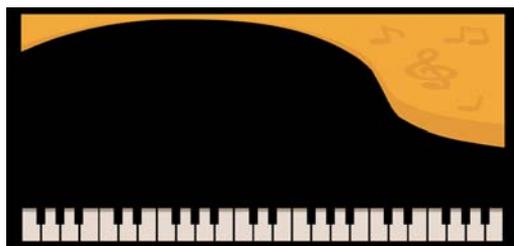
トラツグミ現ると言ふ速報にくずは緑地
へ小走りに行く

柳川 維さん(神奈川県秦野市)

■ テレビ神奈川賞(自由題の部)

黒と白八十八の階段を上って下りて華
麗なロンド

植草 千晶さん(神奈川県秦野市)



■ 神作光一選者賞(題詠「緑」の部)

触れなんと円い緑の落の葉に幼き孫が
手を延ばしくる

両角 サヨ子さん(千葉県市川市)

■ 神作光一選者賞(自由題の部)

爪立ちて届かばそっと触れて見む和毛
のごとき辛夷のつぼみ

菅谷 美奈子さん(東京都品川区)

■ 村岡嘉子選者賞(題詠「緑」の部)

山覆ふ若き万緑風を吸ひ息吹きのおく
ふくらみ返す

村上 公子さん(神奈川県座間市)

■ 村岡嘉子選者賞(自由題の部)

足を病む六十四歳ピッケルを壁掛けとし
て山と別れる

柳川 維さん(神奈川県秦野市)

■ 山田吉郎選者賞(題詠「緑」の部)

みどり子の視線の先にみどり子のりをりて
かたみに一瞥を投ぐ

井田 善啓さん(群馬県高崎市)

■ 山田吉郎選者賞(自由題の部)

炎天の日も敗戦のかの日にも亡き祖母
畑を打ちたると聞く

長尾 俊彦さん(香川県仲多度郡琴平町)

上記のほか、佳作(各部門20首)及び奨励賞(小学校、中学校、各部門各々10首)を選び、それぞれ表彰状及び記念品を贈呈しました。

ご応募いただいたすべての皆さん及び本大会の運営に多大のご助力をいただいた選者の先生方に、事務局より、改めて感謝申し上げます。

なお、来年度は第61回全国植樹祭が、本市及び南足柄市をメイン会場に開催されます。

事務局においても、来年度に向けてより充実した夕暮祭短歌大会となるよう努力していきたいと思えます。

引き続き、全国の短歌愛好者を始めとする皆様のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

◆ 図書館協議会委員の改選

図書館協議会は、図書館法第15条の規定により、図書館のより良い運営を実現するため設置されています。

その委員の責務は、図書館運営の責任者である図書館長の諮問に応じるほか、その他意見を述べる(同法同条)とされているものです。

委員は、「学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者」から選ばれます(同法同条)。

本市協議会は8名の委員から構成されており、その任期は2年間と定められています。

今年8月に現委員の任期が満了することに伴い、新たな委員が任命されることとなりましたのでご紹介します。

■ 学校教育の関係者

石井千昭(いしいちあき)氏
(秦野市立末広小学校長)

川口一正(かわぐちかずまさ)氏
(秦野市立大根中学校長)

長谷川夏子(はせがわなつこ)氏
(秦野市立上幼稚園長)

■ 社会教育の関係者

飯田皓一(いいだこういち)氏
(秦野市社会教育委員)

■ 家庭教育の向上に資する活動を行う者

北村久史(きたむらひさし)氏
(秦野市PTA連絡協議会長)

■ 学識経験のある者

三井悟(みついさとる)氏
(東海大学中央図書館図書課長)

杉山頼子(すぎやまよりこ)氏
(秦野短歌会副会長)

斎藤由佳里(さいとうゆかり)氏
(おはなしころりん役員)



◆ 広域利用が拡大しました

秦野市にお住まいの方は、今年4月から、次に掲げる図書館(室)も併せてご利用いただけるようになりました。

* 南足柄市立図書館

* 山北町立中央公民館図書室

* 開成町民センター図書室

ご利用には、健康保険証、運転免許証など、住所、氏名の確認できるものをお持ちの上、それぞれの館(室)での利用者登録が必要です。また、利用方法は、各々の利用案内をご覧ください。

なお、上記の図書館(室)でお借りになった本などは、それぞれの図書館(室)にお返し下さい。

◆ 東海大学前駅連絡所のご利用を

東海大学前駅連絡所で本の返却ができます(ただし、CD(コンパクトディスク)及び他市の図書館から借りた本を除きます)。

場所：東海大学前駅小田急マルシェ内。

時間：午前8時30分～午後7時まで。

お休み：年末年始のみ。

◆ 谷 鼎 歌碑(渋沢駅南口)のご案内

ひぐらしの一つのみ鳴くにを背に

夕あかね照るみちくだり行く

(歌集『青あらし』所収)

谷 鼎(たに かなえ)は、明治29年現在の秦野市千村に生まれました。

京都帝国大学を卒業後、東京府立第五中学校(現在の小石川高校)で教鞭を執る傍ら、万葉、古今、新古今の研究を進めながら、窪田空穂(くぼた うつぼ)の主宰する「国民文学」において次第に、その歌人としての頭角を現しました。

昭和20年、秦野市千村に戻ったあとは、ふるさと「秦野」の風土に根ざした秀歌を数多く遺し、昭和35年に63歳の生涯を閉じました。

歌碑に刻まれた歌は、秦野に帰り住んだ後(昭和21年夏)に詠まれた作品で、夏の終わり、ひぐらしの声を背に聞きながら、ふるさとの道を下ってゆく情景が、豊かで、しみじみとした叙情をもって詠われています。

まだ歌碑をご覧になっていない方は、渋沢駅をご利用の際などに、ぜひ一度ご覧いただき、郷土の生んだ歌人を偲んでいただければ幸いです。



◆ 『夕暮歌碑めぐり(改定版)』発売

ご好評をいただいている『夕暮歌碑めぐり』増補改訂版の発売です。

平成10年の初版刊行以降、新たに2基の歌碑が建立されました。

また、町村合併等により、その所在地の表示が変更になったものも少なくないため「増補改訂版」を刊行しました。

吟行の際などの解説書として、最適なものとなっています。

図書館2階カウンターにてお求め下さい(定価：800円：税込み)。

— 編集後記 —

図書館報「エル プエンテ」第38号をお届けいたします。

夕暮祭短歌大会の表彰式及び記念講演会にご参加いただいた皆さん、また、ご協力をいただいた秦野短歌会の皆さんに御礼申し上げます。

EL PUENTE(橋) 秦野市立図書館報 《No. 38》

発行日 2009年(平成21年)8月1日

編集・発行 〒257-0015 秦野市平沢94番地の1 電話：0463(81)7012

秦野市立図書館